

感染症の登園基準

こども園は、乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。園児がかかりやすい感染症については、登園の目安を参考にし、医師の診断・指示に従い、登園届の提出をお願いいたします。

◆「熱があったが、座薬を入れて下がったので登園させます」

◆「下痢はしているが元気がいい、吐くけど元気がいいので登園させます」このような状態での登園は、お子さんの体に大きな負担となりますし、他のお子さんへの感染も心配されます。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐため、集団生活に適応できる状態に回復してから登園するよう、ご配慮ください。

○医師による登園許可が必要な感染症。登園届に診断内容を保護者が記入し登園前に園へ提出。

病名	感染しやすい期間	登園のめやす
麻疹（はしか）	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過していること
インフルエンザ	症状がある期間（発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い。	発症後5日間経過し、かつ解熱後3日経過して医師の指示に従う ※家族の方が罹患した場合は、可能な範囲で家庭にて様子を見て下さい。登園する場合は登園前に必ず検温、マスク着用
風しん	発しん出現の前7日から後7日間位	発しんが消失するまで
水痘（水ぼうそう） 帯状疱疹	発しん出現1～2日前から痂皮形成まで	1週間ぐらいたってすべての発しんが痂皮化してから
流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	発症3日前から耳下腺腫後4日	耳下腺の腫脹が消失してから
咽頭結膜熱（プール熱） （病原：アデノウイルス）	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状（発熱・咽頭発赤・目の充血）が消え後2日経過するまで
流行性結膜炎 （病原：アデノウイルス）	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	保健所の示す期間登園停止。濃厚接触者の場合は感染者と最後に接触した翌日から7日間、または保健所の示す期間登園停止
腸管出血性大腸菌感染症 （O157、O26、O111等）	—	医師により感染のおそれがないと認められていること。 （無症状病原体保有者の場合、トイレでの排泄習慣が確立している5歳以上の小児については出席停止の必要はなく、また、5歳未満の子どもについては、2回以上連続で便から菌が検出されなければ登園可能である。）
急性出血性結膜炎	—	医師により感染の恐れがないと認められていること
侵襲性髄膜炎菌感染症 （髄膜炎菌性髄膜炎）	—	医師により感染の恐れがないと認められていること
新型コロナウイルス感染症	—	保健所の示す期間登園停止。濃厚接触者の場合は感染者と最後に接触した翌日から7日間、または保健所の示す期間登園停止

○医師の診断を受け、登園届に診断内容を保護者が記入し登園前に園へ提出。

病名	感染しやすい期間	登園のめやす
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口腔内に水泡・潰瘍が発症した数日間	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑 (りんご病)	発しん出現前の1週間	全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎 (ノロ、ロタ、アデノ等) 細菌性胃腸炎 (サルモネラ等)	症状のある間と、症状消失後1週間 (量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要)	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事ができること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間(便の中に1ヶ月程度ウイルスを排出しているので注意が必要)	発熱がなく(解熱後1日以上経過し)、口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある期間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
突発性発しん	—	解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと
とびひ (伝染性膿痂疹) 原因菌は主に、黄色ブドウ球菌や溶血性レンサ球菌等	患部から浸出液が出ている間	病変部を外用薬で処置し、浸出液がしみ出ないようにガーゼ等で覆った状態のまま、園で過ごせる場合であれば登園可能。プール・水遊びは不可